

令和元年度第1回滝川市総合教育会議 議事録

■開催日時 令和元年12月20日（金）16:00～17:00

■開催場所 滝川市役所5階 第一応接室

■出席者 市長 前田 康吉
教育長 山崎 猛
職務代理者 田代 雄一
教育委員 朝日 幸世
教育委員 芳村 敦子
教育委員 蜂矢 忠昭

1. 開 会

（諏佐企画課長）

これより令和元年度第1回滝川市総合教育会議を開催いたします。

私は総務部企画課長の諏佐と申します。よろしくお願いいたします。昨年と同様、本日も公開形式の会議となりますとともに、議事録についても後日公開することとなりますことを申し添えます。

開催にあたり、前田市長よりご挨拶を申し上げます。

2. 市長挨拶

（前田市長）

令和元年度第1回総合教育会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年は、雪が少なくよかったなと思っているところではございますが、インフルエンザが非常に流行っております。各小学校で患者が増えていますが、滝川第三小学校では学校閉鎖となっております。皆様も気を付けていただければと思っております。

今年、滝川は台風による大きな被害はありませんでしたが、友好親善都市の栃木市が大きな被害を受けました。各学校施設でも大きな被害となっていました。かなり復旧してきていると、栃木市の市長からご連絡いただいております。いつ滝川市も被害にあうか分かりませんので、それに備えた準備をしていかなければいけないと思っているところであります。

また、色々と教育施設について議論させていただいておりますが、滝川市営球場の改修が終わって、次に50年を経過しているテニスコートの改修に着手しようとしているところでございます。来年度に向けて設計等を終わらせて、あと2～3年かかると思いますがテニスコートの改修を行っていくことになっております。

しかしながら、テニスコート以外にも各学校施設には、大きな課題が残っております。江部乙中学校と江陵中学校との統合について、さらには各小学校、滝川西高等学校施設が大変古くなっていることも大きな課題として受け止めているところでございます。しかし、滝川市も財政が非常に厳しいということでございまして、なかなか着手できないことがもどかしく、子ども達には大変申し訳ないと思っております。来年に向けていよいよオリンピックということで、明るい話題といたしましては、パラリンピック、アルゼンチンカヌーチームの事前合宿が決まりました。8月3日から15日間、滝川市で合宿をしていただくことになります。障害スポーツのすばらしさを改めて子ども達に知っていただける機会になると思います。また、アルゼンチンのチームの皆さんが来られた時には、そらぶちキッズキャンプに訪れていただく等、子ども達との触れ合いも行っていきたいなと

思っております。せっかくのオリンピックでございますので、オリンピックの素晴らしさを市内の小学生、中学生に知っていただけることも教育委員会の皆様と相談をしながら考えていきたいなと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本日の会議は設置をされてから5年目ということでございます。毎年、色々と必要なご意見をいただいておりますが、本年も忌憚のないご意見をいただき、この会議を有意義なものにして参りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。

(諏佐企画課長)

これ以降の進行につきましては、市長が行いますので、よろしくお願いいたします。

3. 議題

■江部乙中学校の統合検討について

(前田市長)

まず、検討の経過及び今後のスケジュールについて、教育委員会の方から説明をお願いいたします。

(佐藤教育総務課長補佐)

私の方から、資料に沿って説明させていただきます。江部乙中学校のこれまでの統合検討の経過に関しまして、平成23年にスタートしました滝川市小・中学校適正配置計画に基づきまして、平成24年4月に東栄小学校と東小学校の統合がございました。その後、平成28年に滝川市小・中学校適正配置計画の後期5年分の見直しを行いまして、その中で大きく4点ほどポイントがございました。その一つに江部乙中学校につきまして、隣接校の統合の適否について検討を進めるという考え方が盛り込まれました。これに基づきまして、江部乙地区のPTAの皆様や保護者の皆様、江部乙商工会、同窓会の方々との懇談を重ねてまいりました。保護者の懇談会で主に出た意見について資料に記載させていただいております。

つづいて、裏面になりますけれども、先ほどのご意見の中にもございましたが、より多くの保護者のご意見を伺うべきということで、平成30年には江部乙地区の小学生以下のお子さんを持つ保護者に対しまして、江部乙の中学校がどうあるべきかというアンケートを実施いたしました。その結果からは、できれば江部乙中学校への通学を希望したいとしながらも、現実的には約8割の方が統合にご理解をいただいております。幾度の懇談会とアンケートの結果も踏まえまして、江陵中学校との統合を目指すことといたしました。引き続き令和元年に入りまして、江陵中学校PTAの皆様との懇談会、9月には江部乙地区での地域懇談会でご意見をお伺いして参りました。先月の11月には両中学校と関係する江部乙小学校、滝川第一小学校、滝川第二小学校の校長先生と教頭先生との意見交換を経まして、昨日12月19日、統合準備委員会の設立に至っております。今後の統合までの想定スケジュールですけれども、年明け早々から、統合準備委員会に設けられました各検討部会やワーキンググループが動き始めまして、様々な検討課題の抽出ですとか、それに対する対策を約2年間に渡って準備作業を進めまして、令和4年4月に統合という流れを考えております。

(前田市長)

ただいま今後の進め方につきまして、説明がありました。令和4年からのスタートということで、準備委員会もできたところです。保護者及び生徒さん、皆さんの不安を払拭することが必要だと思っております。色々な検討課題がまだまだあるのかなと思っている次第でございます。そこで、皆様からそれぞれご意見をいただければと思います。まず、田代委員からいかがでしょうか。

(田代教育委員)

学校というのは地域の核になる場所だと思います。私も教職60歳まで働いておりましたが、勤めた学校の2校が廃校になりました。2回ほど閉校式に参加させていただいて、地域の方々とお話しした時に子ども達の運動会時の大きな声、子ども達がグラウンドで遊ぶ姿とかが無くなるなという思いを受けております。

つながりができる、そして大きな情報交流ができる場が一つ地域から無くなってしまうという思いは地域の方々にあると思います。そういう面でも、コミュニティ・スクール等も発足しておりますので、中学校は無くなりますが、小学校はその地域にありますので、交流をこれからもしていただきたい。さらに地域とのつながりのためにもできるだけ、各種行事に参加するようにしていただきたい。統合校に行っても学校の方での、そういった指導が今後、重要になってくるのではないかなと思います。

また、統合に向けて統合準備委員会が設立されて、相互のPTA同士の話し合いが進められていくと思いますが、ぜひ親同士の話し合い、交流の場を重要視して、その中から統合に向けた細かい不安とかが出て来ると思うので、そこから市の方も教育委員会の方も準備しなければならないと思います。そういった形で進めていくことが重要かなと思います。

(前田市長)

続きまして、朝日委員いかがでしょうか。

(朝日教育委員)

全国的に統合になった後の廃校舎がどのように利用されているのかが話題になっていると思いますが、江部乙は美しい村ということで、廃校舎を利用して、美しい村としての活動ができればいいなと思います。

(前田市長)

では、芳村委員いかがでしょうか。

(芳村教育委員)

今年、学校訪問させていただいて、学校側から統廃合すること云々よりも、実際に保護者さんたちにかかる負担が心配というお話を校長先生、教頭先生がされていました。実際に小学校の時は制服が無いので良いですが、中学校に行くと制服、ジャージ、カバン等となると結構な額になってきます。そのようなことを教育委員会としても考えなければいけないのかなと思いますけれども、市としても負担等、それに向けて先へ進めていけることがあるのであれば、もう一度、検討した方がよいのではないかと感じていました。

(前田市長)

続いて、蜂矢委員いかがでしょうか。

(蜂矢教育委員)

中学校の統合ということですが、保護者の方から中学校からではなく、小学校から人数の多い学校に通わせたいという話もありますので、皆様の意見が違う中で、なかなか大変なことだとは思いますが、検討していただきたいと思います。

私たちの時代に比べると、たくさんの先生が少人数の子供たちを見ていて、きめの細かい教育をされていると思いますが、勤務時間について、私は自営業なので自分で決めて自分でやらなければいけないので待ったなしの場合もあり、長時間集中はするが一年かけてやっているわけではありません。学校の先生は一年中ということなので、どこかでセーブをかけないとやりすぎてしまうということがあるのではないかと思います。

(山崎教育長)

委員の皆さんのご意見はまさにその通りだと思います。心配されている方もたくさんいますが、ただ私としては統合は、メリットの方がデメリットよりは多いと思います。ただ、メリットだけというつもりは当然ありません。メリットの方が明らかに多いと思っております。逆にデメリットに注視する地域の方もいらっしゃると思いますので、教育委員会としては、手を尽くしてご理解いただけるよう、努力するつもりですが、市としてもご協力いただければと思います。

(前田市長)

私が市長に就任したのはちょうど平成23年になりまして、その頃からこの計画がスタートしていたところでございます。これまで約8年間、本当に丁寧に議論いただいたと思っているところでございます。しかしながら、まだまだ江部乙地域の皆様にはもっとこうしてほしかったというお考えもあるのかなと思うと申し訳なく思いますが、今の滝川市、そしてまた周囲の状況を考えても、この間、砂川市の計画が出ましたけれども、市内の小学校、中学校各1校ずつとなっております。

小・中学校1校だけの義務教育学校になってしまう様な形が出て来ている時代なので、やむを得ないかなと思っているところでございます。

ある程度の規模の教育環境の中で、クラブ活動等、様々なことを行っていくのが良いのかなと思っております。ただ、小学校においては歩いて通える範囲がいいと思いますので、今後の課題ではありますけれども、小学校についてはしばらく江部乙に置かせていただきたいと思います。コミュニティ・スクールのこともありますので、そのようなことを考えていきたいなと思っております。

また、西小学校も生徒数がかなり減少しておりまして、西小学校、開西中学校の問題もありますので、まだ先の話になるとは思いますが、こちらも課題になってくるのかなというような思いをしております。

先ほど朝日委員さんからも校舎の利用の話がございましたが、こちらも大きな課題になると思います。今の江部乙中学校は滝川北高が廃校になった校舎を使用していますので、仕様が高校生仕様になっておりまして、非常に立派なものになっています。廃校舎をそのままにしておくのはもったいないと思いますので、何かに使えないかなということは考えております。

コミュニティの話がありましたが、今、改善センターを改修して、江部乙で活動している皆様が集える場所、そして子ども達がみんくるにきて勉強していますので、みんくるに来なくても勉強できる場所をあそこに作ろうということを考えています。少しでも環境を整備していきたいと思っています。江部乙のコミュニティはかなりしっかりしておりますので、それを守るべく行ってきたいなと思っています。

江部乙から江陵中学校まで距離がありますので、スクールバスを活用していただくようになると思いますが、不便の無いような運行や様々なことを準備委員会で話し合っていいただければと思っています。

また、助成等につきましては、全体的な課題だと思っています。江部乙中学校のみならず滝川市内の子ども達全体の課題だと思っていますので、色々と検討していきたいなと思っています。

以上が皆様からのご意見を受けてのお話でございますけれども、今の私の話または教育長の話を受けて何かご意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、各委員さんにご理解をいただいているということを含めて、準備委員会の設立をなされたということでございますので、令和4年の4月1日の統合に向けて、今後準備を進めていただきたいと思います。

それではこのように確認をさせていただきまして、次のテーマに入らせていただきたいと思います。

■教育環境の充実について

（前田市長）

続いて教育環境の充実についてでございますが、学びサポーターや特別支援学級支援員、A L T につきまして、色々とお話しさせていただきたいと思います。まず教育委員会から説明をお願いいたします。

（寺嶋教育総務課長）

それでは私の方から教育環境の充実につきまして、A L T、学びサポーター、特別支援学級支援員の3点について説明させていただきます。

A L T については昭和62年度に滝川西高校に配置して以降継続しておりまして、中学校を本務校として各校区内の小学校を巡回指導しており、現在は8名体制となっております。導入の経緯、現状につきましては記載のとおりとなっております。課題といたしましては、A L T の中には日本語があまり堪能ではない方もいますので、教員との意思疎通が難しかったりすることもあります。新たに導入したコーディネート役のA L T を通訳として活用するなどして対応しているところです。

また、経費的な部分でいいますとA L T の任用に係る経費は国の普通交付税で措置されますが、全額がまかなわれるわけではありませんので、市費負担が出ることになります。

次に学びサポーターについてですが、児童生徒の学力の基礎基本の定着と向上、個に応じたきめ細やかな指導と見守り等を目的に各学校に配置したもので、現在は小学校6校に11名、中学校3校に3名、合計14名を配置しております。導入の経緯、現状につきましては記載のとおりとなっております。課題としましては、児童生徒に学習を指導する以上、教員免許という資格が必要ということで、資格要件を設けております。これによりまして、なかなか人材が見つけれないといった課

題が挙げられます。

また、特別支援学級の入級が適当とされた児童生徒が保護者の希望などで普通学級に入級する例も見られ、学びサポーターが対応するケースが増えております。

次に特別支援学級支援員についてですが、特別支援学級の自閉・情緒、または肢体不自由教室について、教員定数と児童生徒の実態に応じて市教委と校長が協議して配置を決定しております。現在は小学校4校に6名、中学校2校に3名、合計9名を配置しているところです。導入の経緯、現状につきましては、記載のとおりで、表にありますように特別支援学級児童生徒数ということで年々増えていることがわかりになると思います。課題としましては、児童生徒と直接的に接する業務であり、担当する児童生徒の障がいの特性等について理解も必要なため、教員の知人等、人づてに依頼するケースが多くあり、学びサポーターと同様に人材確保が難しいという点が挙げられます。以上です。

(前田市長)

ただいま委員会の方から説明がありましたが、これにつきましてそれぞれご意見等あればと思いますが、まずは朝日委員の方からお願いいたします。

(朝日教育委員)

令和2年度から小学校3・4年生の外国語授業が始まるということで、小学校では英語教育に関する環境整備は急がれることだと思いますが、滝川市では数年前から中学校に英語ルームを作ろうという取り組みがあります。英語の意味・良い発音などを小学生の小さい頃から聞かせるということとはとても効果のあることだと思いますので、英語ルームを小学校にも作って、絵本でもCD付きの音も聞こえるような絵本とかそういうものを置いたり、パソコンやタブレット端末を使った授業も、この頃滝川で力を入れていることですが、この間学校訪問の際、江陵中学校で英語の授業を見まして、1人1台ずつパソコンがあってプログラムがそこに流れてきて問題を進んでいくと音も聞こえるようになっていて、良い授業だなと思って見ておりました。そういうものを使ってなるべく良い音を聞かせたり等、環境整備を考えたら良いと思います。

(前田市長)

ありがとうございます。それでは次に芳村委員いかがでしょうか。

(芳村教育委員)

学校訪問させていただいて、滝川市の学びサポーターというのは各学校に1人ないし2人いるということで他の地域に比べるととても充実しているのかなという感じで見てきました。

また、特別支援学級支援員に対しても非常に頑張っているという印象を受けます。うちの場合は幼稚園も持っておりますので、幼稚園ではできるだけ障がいを持ったお子さんを受け入れるということで、次のステップに向けてご協力をさせていただいておりますが、実際小学校の先生と幼稚園の先生は申し送りする機会が必ずあり、そういった時に幼稚園の先生方は小学校の体制が非常に良いので安心して送り出せる。保護者の皆さんからもそういったご意見をいただいております、幼稚園からきちんと引継ぎがされていることが小学校でも実際に滞りなく進めていただいているので、保護者の方たちもとても喜んでおります。今までもそういった体制があったからそういうお話

をいただけたのだらうと思いますので、体制をできるだけ崩さないで、課題も資格が必要等、多いと思いますが体制を崩さずに、しかも障がいが多岐にわたってどんどん増えてきてますので、そういう部分で対応できる先生方、人材の確保を今後もできるだけしていけるような体制をつくっていただけたらと思います。

(前田市長)

それでは次に田代委員いかがでしょうか。

(田代教育委員)

A L Tにつきましては、先ほどお話もありましたように滝川は手厚い配置で、全国的にも早い段階で配置いただいて、英語が入った時には誰が教えるのか、どう教えるのかと先生方も思っていましたけれども、そういった時に入れていただいて大変スムーズにスタートできたのではないかなと今でも思っております。

A L Tからはちょっとはずれるんですが、滝川市というのは先ほどもあったように国際交流協会があったりと熱心に取り組まれているのではないかなと思います。そういうところを例えば先ほどの江部乙もそうですが、江部乙の自然という利点を活かしながらたくさんの外国人に来ていただけないかと。菜の花も見えてすぐ帰ってしまうというような新聞もありましたけれども、ネイティブの先生等、そういう方々に協力していただいて、案内をしながらこちらの方に引っ張ってくるといったらおかしいですが、そういうような手立てもできないのかなと思っております。

これは完全に私一人の思いですが、ここには短大部もありますので、例えば国際学科等を作って市と連携しながら、できないのかなという思いもあります。

学びサポーターにつきましても、多くの人材を入れていただいているということで、今回学力平均はよかったのかなと思いますが、学びサポーターが特に要求されるのは学力の低い子であり、その子達が、そばに先生がいて指導してくれるというのは大変気持ちも知識もついていくのではないかなと思います。その効果は徐々に上がってきていると思いますので今後も継続をお願いしたいと思います。

それから特別支援学級支援員につきましては、こちらも小学校と中学校合わせて9名配置ということで以前からしっかりとした体制にさせていただいて、学校訪問を色々してきておりますが、大変熱心に教えていただいて、子ども達が明るく元気に学ぶことができるといった特徴があると思いますので、こちらについても今後とも続けていただきたいと思います。

(前田市長)

それでは次に蜂矢委員いかがでしょうか。

(蜂矢教育委員)

先日、学校訪問をさせていただきましたけれども、体育館等きれいになっていて、災害時には避難所になることもあると思いますので、引き続きできるところから手入れをしていただければと思います。

(前田市長)

それでは教育長いかがでしょうか。

(山崎教育長)

教育環境の充実については、普段から色々と話すことがあります。市として色々ご理解、ご支援いただいている部分については感謝しています。子ども達は市にとって宝ですし、そして一人一人に寄り添って教育をしていけるように、今後とも教員についてはご配慮頂けたらと思っております。

(前田市長)

それでは私から皆様からのご発言を受けて、少しお話をさせていただければと思います。おかげさまでとてもすばらしいALTの皆さんに来ていただいていると思っております。日本語が話せない場合もありますし、最近欧米系ではなく東南アジア系の方が増えているという傾向があると思います。日本全体がそうなっているのか、国際的な流れなののでしょうか、致し方ないと思いますが、やっぱり子ども達が英語に興味を持つということは素晴らしいことだと思います。この間、ある企業の方に東京で会ったのですが、周りを見たら日本人もみんな英語で話している。もう当たり前に話しているのだなと思いました。表参道の店の中に入ってもみんな英語で話しています。そのような時代なんだなと思いました。そういった意味では滝川は国際交流協会に頑張ってもらっていて、英検の取得率も非常に高いですし、ジュニア大使等に派遣する子ども達は準2級とか1級に近いものを持っていると思います。興味を持っていただいている子ども達が育っていることは嬉しいことだなと思っております。また、パソコンは1人1台を国の方で用意してくださり、プログラミング教育が始まりますが、プログラミングをやる先生はどれだけいらっしゃるのかなと思います。これは結構大変だろうなと思います。先生方の負担というのがますます増えて、本当に大変だろうなと思います。

観光で来た、外国人のお話もありましたけれども国際交流の方で外国から受け入れた人達を小学校、中学校に訪れていただいて交流することがありますので、そういった機会を使っていればと思います。ちょっとしたきっかけがあれば関心を持つということもありますので、そのようなことで努力を続けていきたいなと思います。

また、学びサポーターにつきましても非常にご好評いただいて、私も学びサポーターの効果というのは非常に素晴らしいものがあると認識しております。授業を見に行っても先生方が本当に細かい指導をしている姿が見えているので、この効果を継続させていくために、学びサポーターになっていただける先生方をいかに見つけていくかというのも大事な部分ですので、教育委員会とも協力しながら続けていきたいなと思っております。

また、特別支援学級の先生方も非常に丁寧にやっただいていただいているなと思います。支援学級ではなく普通学級の子ども達と一緒にという考えの親御さんもいらっしゃいますので、その中で先生方の負担が増えているということもありますので、皆さん平等だと、公平なんだという社会を目指すような考え方が身につくようになればいいなと思います。特別支援学級につきましても引き続き努力して参りたいと思っておりますので、色々委員の皆様方からご意見いただければと思っております。特別支援学級、学びサポーターについては委員の皆様もご異存がないと思いますし、評価していただいているということですので、今後ともこれについては努力して参りたいと思います。

だいたいいただいた話については以上かと思いますが、問題は3、4年生までの少人数学級について道教委の方で動きがありますので、これについては今後の検討課題かなと思います。本当は5、6年生まで広げたいところですが、現状は予算的なところで広げておりません。道教委の方で色々検討されていると聞いておりますので、そちらの方の動きがあり次第、こちらの方でもどうするかということを考えていきたいと思っています。

教育施設、設備の問題もありますけども、これについては少しずつ、わずかながらですけれども進めております。先ほど蜂矢委員にお褒めいただきましたけれども、遅くなって大変恐縮しているところです。他にもまだまだなところがありまして、学校の机と椅子の更新も随時進めてきているところがございます。そういったところをきちんとして少しでも学びやすい環境を作るよう努力していきたいなと思っております。

私の方からは以上でございます。私の発言に対しまして何かご意見等ございますでしょうか。

（田代教育委員）

学校活用ということで今、空き教室が結構ありますが、ある地区では空き教室を学童保育で使用しているというところもあります。そういったことを滝川では考えられないのかなと思いますがいかがでしょうか。

（山崎教育長）

福祉との連携という部分では、校舎の構造上の問題もありますし、検討の余地はあると思いますが、今、児童館等が滝川では整備されていると思いますので、今後の課題ということで考えていきたいと思います。

（前田市長）

今後の課題ということで、田代委員からも色々のご意見いただければと思います。

（田中教育部長）

学校開放については色々と問題がありますけれども、やはり動線が問題になりまして、職員室だとか普通教室に入ってしまうということや、体育館を使うという時にトイレが近くになればいけないとか、管理の問題がそこが少しネックになっていると思っております。

（田代教育委員）

管理というのは例えばそこに壁がないとダメとか、扉が無いとダメとか何か決まりがあるんでしょうか。

（田中教育部長）

教頭先生が主になっているんですけども、どうしても要望があれば教頭先生が最後まで管理者として居なければいけない等がありまして、今、働き方改革等がありますので、そこで何か壁を一つ作る、壁を作るとしてもトイレがないといけないだとか、不特定多数が学校の中に入り込んでくるということは、学校現場としては難しい状況です。

(田代教育委員)

私の考えとしましては、そこにいる子どもはその学校の小学生です。そういった観点で行くと親にとっては安心、安全であり、そして例えば体育館は少年団がやっていてもプレイルームや図書館等を使うとか、施設を変えなくても管理の工夫、お互いの連携をうまくやっていけば可能なのではないかなと思います。また、やることによって管理が慣れるという部分もあると思います。

(山崎教育長)

昔は今の構造で学校管理をどこの町もやっていたんですが、ところが今、完全分離していないと何もなくても管理上問題があると北海道の方でも考えていますし、避難の時もそうですが完全分離というのが、法で決まっているわけではありませんがそういうソフトの制約があるので、地域で管理する等、色々手法としてはありそうですが、なかなか現実に関結付けられるかという制約があるというのが正直なところです。今、新しい学校とかは完全に分離して使用できるようになっています。なのでそういうところだけやるというのは、できなくはないかもしれませんが。

(前田市長)

学校区域についても色々問題があると思いますが、東町の方の子ども達があふれて困っていますので東町のコミュニティセンターをどうしようかということも考えています。緑町を使えるようにする等を含めて、大きな課題ではあると思います。

皆様の要望等あれば、やはり移動が無い方が安全ですので、検討課題だと思っております。

大きな議題の2つについては終わりましたが、今回の議会でスマホの問題が出まして、私も前々からこの会で取り上げさせていただいておりますけれども非常に大きな問題だと思っております。なかなか良い解決策がないというところで、ますます所持する子ども達が増えている状況です。この間の広島の小中学生ですか、これも非常に問題になっていました。また、子ども達も騙されやすいというか、すぐついて行ってしまいう傾向にあるのでしょうか。子ども達にスマホを持たすという影響は大きいので、各先生方も気遣っていると思いますが、これは学校ではなく家庭だと思っておりますが、皆さんはスマホをお子さんに持たせているのでしょうか。

(芳村教育委員)

うちはもう大学生なのですが、中学校までは持たせていませんでした。でも、今のお子さんは小学校高学年ぐらいで持っている子もいます。

(前田市長)

そうですね。所持率高くなっていますので。

(山崎教育長)

大阪で学校への持ち込みを解禁するということもありました。

また、情報番組でやっていたのはSNSで知り合った人というのは相手の顔とか何もわからなくてもやり取りだけで信用ができる。けれども家に訪ねてきた人とそこで直に話して信用できるかといわれると、それは信用できない。なぜかSNSでやり取りすると信用できると。SNSはこれからも問題になり続けるかと思っております。

(前田市長)

この話はいつまでたってもなかなか解決が難しいと思いますけれども、大きな問題と捉えて話をしていきたいと思いますので、皆様よろしくお願いいたします。

4. その他

(前田市長)

それでは2つのテーマも終わっておりますので、その他ということになりますが、この間、國學院大學の理事長にお会いしてきましたけれども、新学部構想の準備を進めているということで、滝川の短大部を活用することもご検討いただいているとのことでした。せっかく短大部がありますので活用させていただければと思っています。

では、その他は以上とさせていただきます、進行を事務局に返します。

5. 閉会

(諏佐企画課長)

本会議につきましては、毎年定例的に開催させていただいております。教育委員会と事務局とテーマ設定についてご相談させていただきながら、進めさせていただいております。また、来年度につきましても同様に開催をさせていただければと思っております。

また、他に協議が必要な事項が生じた場合は改めてご案内をさせていただくこともあると思いますが、よろしくお願いいたします。

他にございませんでしたら、閉会とさせていただきますがよろしいでしょうか。

では、以上を持ちまして令和元年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。皆様ありがとうございました。